

# 三菱重工業株式会社(2020年グリーンボンド)

契約の種類: アニュアルレビュー

日付: 2026年1月30日

担当者:

Vipula Pandita, [vipula.pandita@morningstar.com](mailto:vipula.pandita@morningstar.com)

本アニュアルレビューは、サステイナリティクス社が英語で作成した「Annual Review (January 2026)」の参考和訳として、三菱重工業株式会社が翻訳したものです。

英語版が正本であり、本参考和訳との間で不一致がある場合は、英語版が優先しますので、必ず英語版もご覧ください。

## はじめに

2020年11月、三菱重工業株式会社(以下、「三菱重工」)は、再生可能エネルギー／クリーンエネルギープロジェクトへのリファイナンスを目的とするグリーンボンド<sup>1</sup>を発行し(以下「2020年グリーンボンド」<sup>2</sup>)、250億円を調達しました。2026年1月、三菱重工は、2020年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクト(以下「選定された支出」)が三菱重工業株式会社グリーンボンドフレームワーク(以下、「フレームワーク」)で設定された資金使途のクライテリアやレポートティングの指標に合致しているかについての評価を、サステイナリティクスに委託しました。サステイナリティクスは2020年10月、フレームワークについてセカンドパーティ・オピニオン<sup>3</sup>を提供しています。本レビューは、2021年6月、2023年3月、2024年2月、2024年11月のレビューに続く、フレームワークに基づいて発行された債券の資金充当状況・レポートティングに関する5回目のレビューとなります。<sup>4567</sup>

s

## 評価基準

サステイナリティクスは、以下の要件について、選定された支出及び三菱重工のレポートティングを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアと適合しているか
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対する重要パフォーマンス指標(KPI)の少なくとも一つについて報告しているか

<sup>1</sup> 三菱重工は2020年11月に2020年グリーンボンドを発行し、償還日は2025年11月です。

<sup>2</sup> 三菱重工「三菱重工業株式会社第36回無担保社債(社債間限定同順位特約付)(三菱重工グリーンボンド)」:  
<https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond>

<sup>3</sup> サステイナリティクス「セカンドパーティ・オピニオン、三菱重工グリーンボンドフレームワーク」(2020)はこちらよりご覧いただけます。  
[https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/gb\\_spo.pdf](https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/gb_spo.pdf)

<sup>4</sup> サステイナリティクス「三菱重工 アニュアルレビュー」(2021年)

[https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb\\_review2020.pdf](https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb_review2020.pdf)

<sup>5</sup> サステイナリティクス「三菱重工 アニュアルレビュー」(2023年)

[https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb\\_review2021.pdf](https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb_review2021.pdf)

<sup>6</sup> サステイナリティクス「三菱重工 アニュアルレビュー」(2024年2月)

[https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb\\_review2022.pdf](https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb_review2022.pdf)

<sup>7</sup> サステイナリティクス「三菱重工 アニュアルレビュー」(2024年11月)

[https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb\\_review2023.pdf](https://www.mhi.com/jp/finance/stock/esg/greenbond/pdf/36gb_review2023.pdf)

表1:調達資金の使途、適格クライテリア及び関連するKPI

調達資金の使途	適格クライテリア	重要パフォーマンス指標
<b>再生可能エネルギー／クリーンエネルギー事業</b>	<p>当社グループが取り組む以下の基準を満たす再生可能エネルギー／クリーンエネルギー事業に対する新規支出及びリファイナンス(研究開発資金、事業開発・事業運営資金、運転資金等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 水素発電の場合、100%水素発電に向けた事業・プロジェクトであること</li> <li>▪ 地熱発電の場合、CO<sub>2</sub>排出量が100gCO<sub>2</sub>/kWh以下であること</li> <li>▪ 法人への出資の場合、当該法人が再生可能エネルギー／クリーンエネルギー事業専業又は売上の90%以上を再生可能エネルギー／クリーンエネルギー関連で占めていること</li> <li>▪ 事業・プロジェクトへの支出が、関連するグリーンボンドの発行日から遡って7年以内に実施されたものであること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 対象事業に関連する再生可能エネルギー／クリーンエネルギー施設の年間発電量(MWh)、年間CO<sub>2</sub>削減量(トン)</li> <li>▪ 研究開発の進捗状況に関する情報(参加プロジェクトの概要等)</li> </ul>

## 発行体の責任

三菱重工は、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含む、プロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

## 独立性と品質管理

投資家にESGに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステナリティクスは、三菱重工の2020年グリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の評価のため、三菱重工からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、三菱重工から提示された情報と事実に依拠しています。三菱重工が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果については社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会(Sustainability Bonds Review Committee)が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセス<sup>8</sup>に基づき検討した結果、サステナリティクスはすべての重要な側面において、選定された支出が、フレームワークで規定された資金使途及びレポーティングの指標に適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。三菱重工は、サステナリティクスに対し、2020年グリーンボンドの調達資金が2025年3月時点で全額充当されていたことを開示しました。

<sup>8</sup> サステナリティクスの限定保証プロセスには、正確な情報を提供する責任のある、発行体から提供されたプロジェクトの詳細に関する文書の調査が含まれます。これにはプロジェクトの説明、コストの見積及び実額、プロジェクトによるインパクトなどを含む場合があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

## 調査結果の詳細

表2:調査結果の詳細

フレームワーク 上の要件	調査手順	調査結果	特定された過失 または例外
資金使途 クライテリア	選定された支出を対象に、フレームワークに示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	選定された支出は資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポートリングク ライテリア	選定された支出又は資産を対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワークに示されているKPIと適合する形で報告されたかを検証。	各資金使途クライテリアに対するKPIが少なくとも一つについて報告されました。	該当なし

## 参考資料

### 参考資料1: グリーンボンドの調達資金の充当状況

表3: 2020年グリーンボンドの充当状況

調達資金の使途の カテゴリー	プロジェクト概要	調達資金の 充当額 (百万円)
再生可能エネルギー／ クリーンエネルギー事業	▪ 洋上風力発電設備専業のMHI Vestas Offshore Wind A/S <sup>9</sup> への出資に対するリファイナンス	24,893
	調達資金の充当額合計:	24,893
	調達資金の未充当額合計:	0
	グリーンボンド発行による調達資金の手取り額合計:	24,893 <sup>10</sup>

### 参考資料2: プロジェクトのインパクト

表4: 2020年グリーンボンドの報告されたインパクト

調達資金の使途の カテゴリー	報告されたインパクト <sup>11</sup>		
	年度 <sup>12</sup>	年間発電量 (MWh)	年間CO <sub>2</sub> 削減量 (万トン)
再生可能エネルギー／ クリーンエネルギー事業	2016	981,602	49
	2017	3,176,087	160
	2018	5,499,659	277
	2019	7,610,776	384
	2020	9,772,989	493
	2021	55,819,561	2,813
	2022	94,362,019	4,756
	2023	133,992,198	6,753
	2024	169,211,979	8,528

<sup>9</sup> 三菱重工とVestas Wind Systems A/S(Vestas社)の合弁会社であるMHI Vestas Offshore Wind A/S(MVOW)

<sup>10</sup> グリーンボンドの発行総額は250億円。発行費用1億700万円を差し引いた、248億9,300万円が調達資金の手取り金です。

<sup>11</sup> 当該インパクトは、風力発電設備の開発・設計・製造を完了した後、稼働が想定される2016年度以降の理論値です。

2016年度から2020年度までは、三菱重工とVestas社との合弁会社(三菱重工の株式持分50%)であるMHI Vestas Offshore Wind A/S(MVOW)の納入実績に基づく数値を報告しています。2021年度からは、2020年12月に三菱重工がMVOWの株式持分全て(50%)をVestas社に譲渡し、同時にVestas社の株式を約500万株(約2.5%相当)取得したため、Vestas社の納入実績に基づく数値を報告しています。

<sup>12</sup> 各年度の対象期間は、4月1日から翌年3月31日までです。